

市政懇談会（ワークショップ） 会議録

日時：令和6年11月20日（水）19：00～20：40

場所：魚津市役所 3階 大会議室

市側出席者：市長・副市長・女性活躍社会推進室長（総務部長）・総務部次長・民生部次長・
女性活躍社会推進室長代理（地域協働課長）

参加者： 28名

（参加団体：cocomama、NAPs、うおづ女性ネットワーク、グループ波、魚津市更生保護女性会、魚津市農業協同組合女性部、
魚津商工会議所、魚津市男女共同参画地域推進員、防災士 など）

開催目的	魚津市男女共同参画プラン（第4次）では、「慣習、制度等における性別による固定された役割分担を見直し、男女がお互いを思いやり助けあえる地域社会を作ること」を基本理念の一つに掲げ、男女が家庭的にも社会的にも、ともに性人を担い、あらゆる活動に対等な立場で参画できるよう取り組んでいます。 市政や地域活動への女性の参画を促進し、つなげる取り組みとして、ワークショップを実施する。
------	--

テーマ：防災 ～ 地域や身近な人とのつながりを強めるためには ～

◆魚津市の防災対策について（別紙 資料1）

令和6年2月5日に開催した「女性たちの市政懇談会（ワークショップ）」で多くの意見や質問がありました。魚津市では、どのような対策がなされているのかを資料にまとめ説明しました。



◆グループワークショップ

Aグループ

意見	   <ul style="list-style-type: none">◆<u>近隣とのつながりを強めるために</u><ul style="list-style-type: none">・ラジオ体操に参加することで、近隣にどんな人がいるかを知ることができる。・密集している地域では、日頃から近所付き合いがある。いい意味でのおせっかいが必要。◆<u>あまり親しくない人との交流を広げるためには</u><ul style="list-style-type: none">・運動会は決まった人が出ることが多いが、<u>飲食を伴うイベント、例えば夏祭りなどのようなイベントは、いろいろな世代の人たちが参加しやすい。</u>・お寺の行事では、同じ門徒の方が集まるので交流の幅が広がる。
----	---

Bグループ

意見	<ul style="list-style-type: none">◆<u>地域の人とのつながりは必要</u><ul style="list-style-type: none">・婦人会やサロンの参加者は、そこでのコミュニティもあり、つながりもできる。・家族との交流（ご飯を一緒に食べる。会話をする等）・地域行事への参加は、地域の方と知り合いになるきっかけになる。・以前から住んでいる方は、なんとなく地域の人を知っている。・<u>アパート暮らしの方等は、つながるきっかけがほとんどない。地域の情報が入ってこない。</u><ul style="list-style-type: none">⇒広報や回覧版が届くようにして、「地域で行われていること」を広報や回覧版で周知することで、つながりのきっかけになる。◆<u>情報の周知</u><ul style="list-style-type: none">・アナログが大切。紙ベースのチラシなどをいろんなところに貼ることによって、情報を目にするができる。情報を取りに行かなくてもよい。・<u>チラシや広報により、地域で何をしているのかを伝えていくことで、役員の担い手の確保につながるのではないか。</u> 
----	--

◆地域の4大行事（祭り、敬老会、運動会、文化祭）
 ・どの地域も必死につないで頑張っている。この4大行事がまだまだ残っているということは、リアルでつながる、顔を会わせて、つながる場所があるということ。⇒リアルな関係性をつくっていくことができる。



リアルな関係性の先に、電子回覧板や LINE グループなどのデジタル活用をしながら、人と人がつながることが大事ではないか。



◆まとめ

・人が集まることをきっかけに、人と人とのつながりが強まることで、地域の防災力も強くなるのではないか。

Cグループ

意見

◆体験談より

・1月の地震の際に家に居た。しばらく経って外に出てみたら、ご近所は真っ暗でみんな逃げて行って自分だけ家に居た。
 ・防災訓練では、班長が各家を回って安否確認をした後、班の集合場所に集まり、避難所へ向かった。知らない人もいて、情報を伝えるのが大事だと感じた。



◆若い人や高齢者にどのように情報を発信して、受信してもらうのか。

・情報の送受信がすんなりといくように、いろんな場所、いろんなツール、いろんな日時に情報の発信・受信を体験する機会があるとよい。
 ・お祭りや文化祭、運動会などの地域行事で、ちょっと献血をするような気持で、段ボールベッドの組立などの体験ができればよい。



Dグループ

意見

◆災害時、最初に何を？

①同居家族の安否確認、②近所の人々の安否確認

◆災害時に困る人は誰だろうか。

- ・身体的に障害がある人…避難の時に助けが必要
- ・元気だけど自分で情報を取りに行けない人…ネット情報など教えてあげないとけない。
- ・一人暮らしの人など…どこまで踏み込んでよいかわからない。災害時に突然訪ねるとびっくりする場合があるだろう。そうならないようにしたい。
- ・新興住宅では、近所づきあいが希薄になりがち。
- ・引っ込み思案な人や地域行事に出づらい人 など



◆災害時に困る人たちの情報の把握は？

- ・一人暮らしであれば、民生委員が日頃から訪問したりしているので、地区の民生委員さんは誰なのか知っておかなければならない。民生委員が防災組織の中で頭角を現わせるようにする。



◆つながりを強めるためには

- ・地区の行事に参加することも大切であるが、そもそも地区の役員は男性ばかりで女性は出ない。女性が役員等を「やります」と言ったときに、みんなでウェルカム、歓迎してあげることも、一人一人をとりこぼさないことにつながると思う。
 - ・一人暮らしの人とのつながりでは、日頃から、回覧版を持って行って顔を会わせることも大事。行事に出ていくという感じではないが、日頃のちょっとしたコミュニケーションは必要。
 - ・地域の会合は、知り合いになるきっかけの場になる。
 - ・地区の行事に年2回は出席するようにしよう。
 - ・班同士の絆を深める。
 - ・若い時に役員（PTAを含む）を経験することで、役員になることのハードルを下げることで、いろんな人を知る機会が増える。楽しく知ることができる。
- 最初は無理矢理になった役員であってもやってよかったというふうになればよい。



Eグループ

意見

◆つながりが薄れる原因

- ・子どもの成長に伴って地域とのつながりが希薄になっていった。
- ・子供がいる家庭が把握できない。
- ・ろうあ者の方とどのようにコンタクトを取ればよいかわからない。
- ・住んでいる年数でも知り合いや関係性が異なる。



◆つながりが生まれたきっかけ

- ・地区の役員を引き受けたことで知り合いが増えていった。
- ・行事を通して交流が生まれ、知り合いが増えていった。
- ・子供を通して知り合った人とは、ずっと仲が良い。
- ・コミュニティセンターに集まることで、情報共有して、知り合いが増えていくきっかけになった。

◆つながっていくためには

- ・地域の行事に参加すること。
- ・ご近所の様子を気にかけてあげる。
- ・気になる人がいるけど声掛けなど出来ない場合は、民生委員さんに情報を伝える。
- ・コミュニティセンターの行事に子どもが参加することで、子どもがコミュニティセンターの職員や地域の方に覚えてもらえる。子どもを通して地域の方とつながりが持てるようになる。
- ・子どもの登下校の時間に玄関先で、挨拶を交わすことで、お互いの顔を覚えてもらえる。



Fグループ

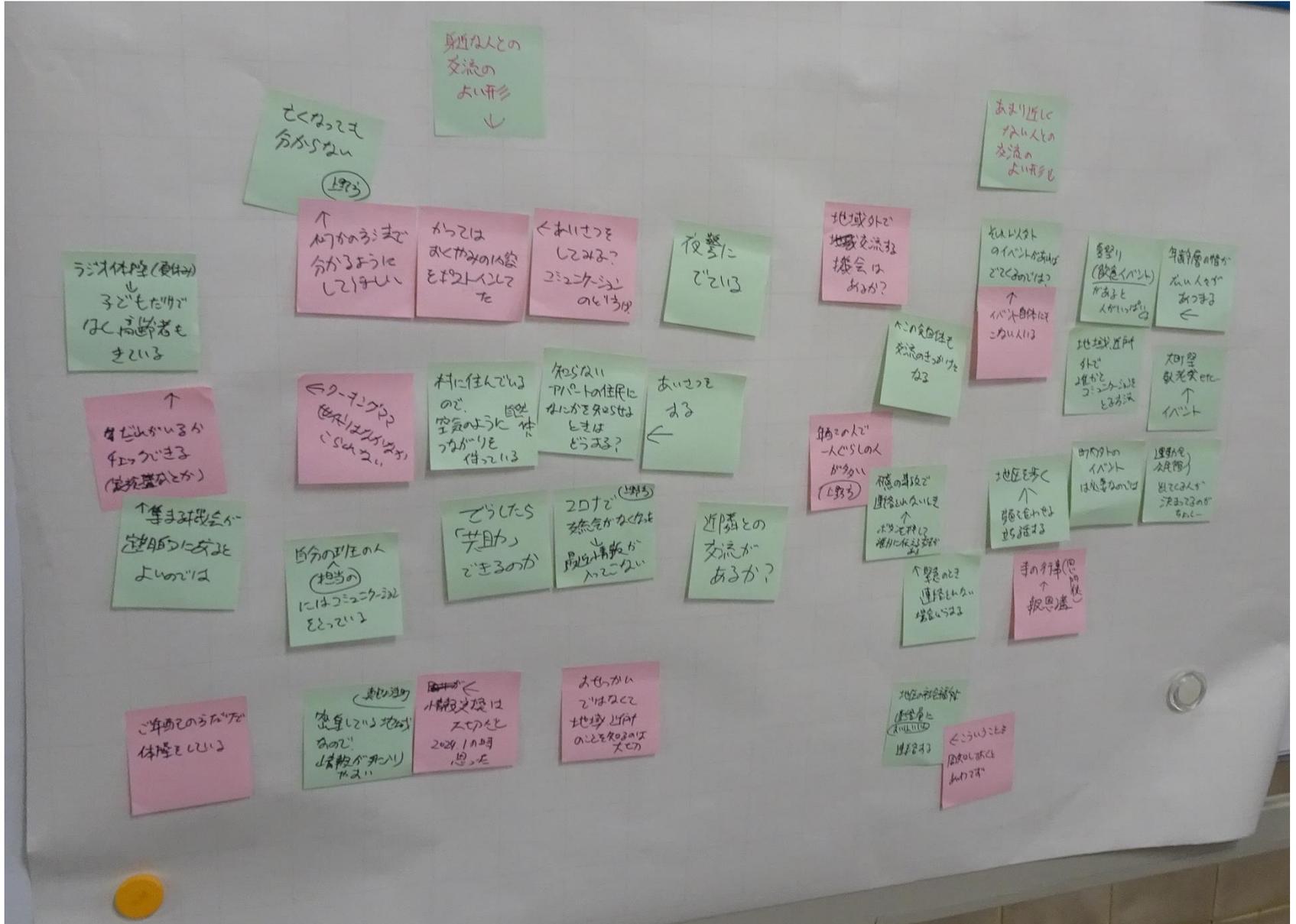
意見	<p>◆災害時に困る人 一人で生活している人、高齢者、身体に障害がある人、介護・医療が必要な人、小さな子供を育てている家庭、交流が少ない人（特に男性が多い）</p> <p>◆つながりを強めるためには</p> <ul style="list-style-type: none">・コミュニティセンターやサロンなどの地域の行事に参加していく。声掛けをして参加を促す。・日頃から、電話などのやり取りでお互いの様子を確認する。・町内会に入っていない人は地域の人との交流がない。単身赴任者や町内会に入らない人には情報源として、SNSでの情報発信が大切である。・リアルなコミュニケーションも大事だが、そうできない人には、デジタルの情報があるとよい。・個人個人のコミュニティは異なる。自分が持っているコミュニティを重ねていくことによって、コミュニティが広がり、活発化していき、人と人とのつながりが強くなっていくのではないかと。 <p>◆避難所について</p> <ul style="list-style-type: none">・女性を配置することが大事。
----	--



講評 (市長)	<p>今回もいろんな視点のご意見が出ました。考え方が参考になりました。</p> <p>情報については、リアル、アナログ、SNSなどでしっかり伝えていくことの大切さを感じました。顔を会わせる場、地域行事などに多くの人が参加することも大事であり、また、そのような場が、地域の安全をつくって場になってほしいと感じました。</p> <p>このような意見を活かして、施策に反映していければと思います。</p>
------------	---

各グループの発表資料

Aグループ



Eグループ



Fグループ

